

令和6年度第2回鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議 会議録

日時:令和6年(2024年)11月21日(木) 15時~16時35分

場所:中央図書館 多目的室

議事次第のとおり、議事を進行。

議事次第Ⅰ 第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

(委員) 取組事業 60 にある施設訪問や懇談などは、アンケートをとって、そこから新たなサービスにつながっていくという形だったのか?はじめの一步はどこか?

(事務局) 第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画の重点取組事業の中に読書バリアフリーへの取組をあげている。取組事業一覧の中の 63.64 は、第4次の前からなかなか進められず課題としてあったので、アンケートの回答内容から今年の令和5年度に鎌倉あけぼの園、あおぞら園、PONOKIDS 鎌倉の3施設を選び訪問した。令和6年度は入院中の子どもたちなど医療ケア児へのサービスとして、図書館としても何をしたらよいか、わからなかったので、まず、医療ケア児のいる小さき花の園ヘニーズ調査を行った。また玉縄図書館の近くにあり、継続した連携ができそうな、鎌倉こども学園「チューリップ」へも訪問した。はじめの一步としては、アンケートということになると思う。

(事務局) 読書バリアフリーを重点取組事業として取り上げる中で、最初の一步として支援学校へ行って何ができるのか、入院中の子どもへのサービスは何ができるのかを手探りで行っているところ。これから先、自分たちだけで行うのがよいのか、どうやって連携していけばよいのか、状況把握に努めている。

(委員) 小さき花の園はどういう施設か。

(事務局) 小さき花の園は入所施設だけでなく通所サービスも行っていて、子どもだけでなく大人へのサービスも行っている施設。利用者のいる場所は医療用のマスクをしないと入れなかったりしたが、懇談の中で、小さき花の園からおはなし会の要望があったので、外部の人と接することは可能なのかと思う。また図書館への来館も希望され、ベッドに近い車椅子で、実際に近くの腰越図書館のおはなし会に参加された。

(委員) 以前、急性期医療施設に勤めていたが、本を読む時間が必要だと感じていた。ベッドからも起き上がれなかったり、ずっとテレビを見ているような生活の中で、絵本を読んでもそこに人とかかわりが生まれる。そういうことが子どもたちにとって大切だとずっと感じていたが、病院からは中々頼めないで、話し合いの機会を検討する等ぜひ図書館からアプローチしてほしい。近いところだと湘南鎌倉総合病院とか。

(事務局) 医療施設へは今までなかなかアプローチができなかった。何ができるのか、まだわからないが、ノウハウをお伝えすることはできるかと思う。いい形にもっていけたら、と思っている。

(委員) 絵本をきっかけに人とのつながりができるといい。また、取組事業 53「鎌倉らしいイベントの企画や地元書店・地元出版社との連携の充実」とあるが、書店と一緒に何ができるだろうか?

(事務局) 「湘南書店組合」を通してポップの展示をしてもらったことがある。書店も地域と一緒に

何かやりたい、という気持ちがあり、連携してくれた。そのときは、ポップで紹介された本をわざわざ仕入れてくれた。

(委員)全国的に本屋がなくなっている。地元の出版社や書店は大事にしていきたい。

2 アンケートについて

(委員)参考にまわしてもらった LL ブックがとても興味深かった。アンケート結果をみると、所蔵がない施設も多いようだ。LLブックにふれる機会が少ないからか。NHKのラジオで「やさしいことばニュース」というのを夕方にやっているが、子どもたちにもわかりやすいのでおすすめ。

(事務局)全体からみればたくさん出版されている本ではないので、単価が高くなっている。まだ所蔵がない施設もあるが、昨年度よりは増えている。

(委員)LL ブックをきちんと読んだことがなかったが、中々手に取る機会がないので今日みることでよかったです。

(事務局)ことばをやさしく表現するのは図書館でも今取り組んでいて、第5次サービス計画におけるアンケートは、通常のアンケートとともにやさしいことばでのアンケートも同時にとっている。長い文章だと大人でもわからなくなることもあるが、わかりやすくなっている。

(事務局)「やさしいことばニュース」は海外にルーツのある子どもたちにもわかりやすい。LLブックは誰にでもやさしく読めるもので、LL ブックだということを意識せずに読んでいる子も見たことがある。

(委員)アンケートをとって、そこからサービスが広がるのはとてもよいことだと思う。また、現在子ども食堂が増えていると聞かすが、そこでの連携や、本を通して交流の場になるのもよい。

(事務局)全国的には子ども食堂と連携している図書館もある。子ども食堂もコロナで大変だったようだが、連携の可能性を探していきたい。

(委員)回答率も高く、学校の関心が高い。学校図書館をよくしたいという意識の高さを強く感じる。アンケートの記述部分をみると、周囲の人の協力を得ながら、学校図書館を運営している様子が伺える。図書委員や保護者など協力者が得られれば、もっと学校図書館を開館することができるのかと思ったが、学校の現場はいかがか。

(委員)学校は現在、バーコード管理となりすべて電子化されたので、図書委員の負担がだいぶ減り、楽になった。誰が図書委員になっても貸出返却手続きが可能。

(委員)図書委員が貸出手続きをすると、誰が何を借りたかがわかるが、それでトラブルになったりしないのか？

(委員)パソコンの画面にはでるが、これまでトラブルになったというのは聞いていない。保護者のボランティアが週2日くるが、外部の人になるので、個人情報にアクセスできないようにしている。

(委員)放課後保護者として、ボランティアではいり、図書館を開館しているが、その際は個人名がわかるようなりストは使用せず、個人情報はわからないように手続きをしている。またはじめに守秘義務について研修も受けた。

(委員)様々な人が関われば、学校図書館を長く開館できる。個人情報のことを考えながら、開館

方法を考えていきたいですね。

(委員) 督促なども、昔は借りている本の題名を記載したうえで、図書委員の子が延滞している子に紙(督促状)を渡していたこともあったが、今は「返していない本が1冊あります」といった表記をするようになった。

(委員) 探調ツールというシステムで、貸出返却の管理や、検索ができると思うが、図書館と学校はつながっているのか?また他の学校の検索はできるのか?また電子書籍が入っていると聞いたが、どんなものが読めるのか?

(委員) 蔵書検索などは他校とのつながりはない。電子書籍はタブレットに入っているが、子どもの読みたいものが少ない。

(事務局) タイトル数を増やすには予算が必要。

(委員) 探調ツールはスタンドアロンなので、他の学校の検索や図書館と連携などはできない。教職員がつかうときのモードと、子どもたちのモードが違うので、読書の自由は守ることができる。読書館は、子どもたちのタブレットに入っている電子書籍だが、やはり著作権の関係などもあり、名作系が多く入っている。最近流行っていたり、映画の原作などを目にするのはあまりない。

また、放課後の開館だが、そもそも子どもたちが放課後、校舎内に残るということがあまり想定されておらず、学活後に少しだけ立ち寄りしたいニーズがあるぐらいかと思う。放課後開館については、どのくらいニーズがあるのか、効果はどうかと思う。

3 新しい深沢図書館について

(委員) ディスレクシア等、本は好きだが漢字が読めない子が楽しめるような、ルビがついているものや、行間が空いていて読みやすいものを蔵書として増やしてほしい。新訳の本はルビがあるものが多いので、新しい本を増やしてほしい。たとえば角川つばさ文庫の「ナルニア国」シリーズやロアルド・ダールのシリーズなど。他の名作は青い鳥文庫や角川つばさ文庫などが入っているものもあったので、たまたまなかったのかもしれないが。

また、あまり図書館に来ない子どもからは、図書館は静かで本がたくさんある場所というイメージが強いので、楽しい雰囲気のあるキッズスペースがあると行くきっかけになるという声をもらった。

託児スペースがあるのも助かる人が多いと思う。千代田区立図書館など、月に2回、第1, 3土曜日各5人まで。対象5カ月児~未就学児。1時間 500円という形で行っており、月に2回だけでも助かる人が多いのではないだろうか。仕事をしている間だけ預かってほしい、という要望や、市役所の用事の間託児があるなど。保育園の一時預かりより送迎の時間が省けてよい。

(委員) 託児サービスはあったほうがよいと思う。幼稚園・保育園のみならずサービスの一つとして、社会全体で子どもを育てるという姿勢を見せた方がよい。LLブックは高かったり、知らない人が多かったら、見せていくというのも新しい取組としてやっていくのはどうだろうか。

閲覧席や自習席については、音の問題があり、例えば話をしながら複数人で利用するのと、新聞を静かに読む人が利用する席が自然に離れるような配置、動線誘導をするのがよい。

比較的静かなスペースに新聞コーナーと閲覧席、複数人で利用する席はそれに合ったレイアウト

で閲覧席から離す、自習席にはコンセントを設けるなど。またちょっと壁をつくるだけでも、音が聞こえにくくなったりするので、そういうことも検討してはどうだろうか。鎌倉山のブックカフェは本棚と本棚の間に椅子があり、穴倉のようなスペースというのがそういうイメージかな、と思ったが、椅子の向きや本棚の向き等置き方だけで全然ちがうと思う。空港などのラウンジスペースのような場所があれば、くつろげるのではないだろうか。

(委員) にぎやかな図書館という路線があると思うが、音の問題が生じてくる。入札で決まった業者はオフィスビルが得意な場所が一番合理的なところが選ばれた。四角いスペースのなかで、音の問題、ゾーニングどのようにするのか、気になっているところでもある。静かにする場所を作るなら、壁をたてるしかないが、閉塞的になってしまう。そこでヒントになるのが、半屋外、壁はあるけど屋根がない、あるいは屋根はあるけど壁がない、という空間。子どもたちが騒いでも気にならない。箱のような空間にどうやって半屋外をつくるか、その場所をどう図書館と接続していくか、大人のスペースの緩衝地帯にするか、設計会社に頑張ってもらいたいところ。

(委員) 図書館によく行く子どもたちは、静かだし本がたくさんあるから行くという声があった。本がいっぱい借りられるから行く、といった多くの蔵書や静かな空間に魅力を感じている。一方であまり行ったことがない子どもたちからは、学校図書館と違いすぎて入りにくい。具体的には本棚が高く大人が使う場所のイメージがあるからという声があった。子どもを迎え入れる雰囲気作りが必要。学習スペースは小学校高学年からニーズがあると考えられる。

(委員) 中学生の利用者も毎日来る子どもと、まったく来ない子どもたちで二極分化している。そのため本を読むだけではなくて、いろいろな子がリラックスして過ごせる場所であってほしい。放課後開館していると、勉強している子がいたり、友達と声をかけあっていく場所だったりすると、行きにくいということもなくなる。また、意見の中に、学校の授業の内容が知りたいというのがあり、驚いた。

(事務局) 市図書館でもこどもの本に親しんでいるシニアの方も一定数いる。

(委員) 学校の様子に興味がある方がいらっしゃるのはありがたいが、セキュリティの観点からいつでもどこでもということは難しい。地域連携の話が、部活動でよくでていたが、図書館に「学校での授業や活動の様子がわかるコーナー」があると、学びの点でも連携したい人がでてくるかもしれない。まさに地域とともに学ぶという可能性が広がる。また、図書館クラブというのが興味深いと思った。

(事務局) 今回は新しい市役所に深沢図書館が入るというかたち。新中央図書館はまた別にある。にぎやかな図書館を求めている人も、静かな図書館を求めている人もいるので、ゾーニングについて提案していく。

今回は2月に書面会議を予定。